

■ 平成 26 年度国土交通省「国土技術研究会」 について

北海道開発局 港湾空港部 港湾建設課 水島 良

国土交通省「国土技術研究会」は、国土交通省所管の社会資本整備行政に係る技術課題、中長期的又は緊急的に取り組むべき技術課題等について、技術の向上と行政への反映を図ることを目的として毎年開催されており、本省、地方整備局、北海道開発局、地方航空局、試験研究機関等が発表を行い、議論が重ねられます。

平成 26 年度は、11 月 5 日、6 日の両日に霞ヶ関の中央合同庁舎 2 号館において開催されました。

5 日（水）は、自由課題を中心に 57 課題の報告（北海道関係は 6 課題）が行われ、様々な土木技術の紹介とともに、各種災害（地震・水害・高潮等）時の対応から得られた新たな知見について報告がありました。

私は「段階施工を可能とする防波堤整備工法について～連結セルラブロック工法の開発～」について、北海道開発局の代表として発表してきました。

施工規模が小さい場合にケーソン工法より効率的に整備を行えることや、予算に応じた柔軟な防波堤延伸が可能なことなど、連結セルラブロックの特徴を中心に発表を行いました。会場から第一線防波堤への適用や、コストの算定について質問があり、参加者の興味をひいていました。

6 日（木）は、午前中に自由課題のアカウントビリティ部門と指定課題についての発表がありました。

アカウントビリティ部門では、発表者 5 名がそれぞれのテーマで順次発表した後に、公共事業のアカウントビリティに関して、発表者 5 名と審査員 3 名によるグループディスカッションを行う形式で進められました。広報活動において、一般的に PR 写真は大型構造物や建設機械等に偏りがちですが、工事に係わってきた職人達の顔が見える作業風景を「工事の軌跡」として紹介する広報活動の事例の発表がありました。同じものづくりを行う立場として、職人を写真に掲載することで、構造物は熟練した技術の積み重ねによって造られることが伝わり、自分も技術力の大切さを改めて認識することができ、非常に興味深い内容でした。

午後からは三陸鉄道株式会社の望月正彦社長による特別講演「三陸鉄道 復旧・復興の取組み」があり、東日本大震災発生時における初動体制や平成 26 年 4 月の全線復旧までの道のりについて紹介されました。

震災発生時は、電力の供給や通信手段が寸断される中、被害を免れたディーゼル車両を災害対策本部とし、衛星電話を使用して情報収集にあたった状況の報告があり、緊急時には柔軟な対応が重要であると感じました。また、復旧工事中で駅舎が使用できない状況でも、地元住民の方々によって駅舎周辺の草刈りなどが行われていたとの報告があり、地元住民の方々の三陸鉄道復旧に対する強い期待感が感じ取られました。

本研究会には、国土交通省職員のほか、自治体やコンサルタント会社の職員等も参加し、各地方整備局等の取組に対して活発な質疑がなされ、参加者の関心の高さが窺えました。

また、本研究会への参加により、簡易橋梁点検システムの開発や全国初のサンドパック工法による海岸浸食対策など、港湾分野以外の発表も聴講でき、新たな技術開発へのモチベーションも向上し、とても有意義な 2 日間となりました。

最後になりますが、今回私が発表しました連結セルラブロック工法の開発に携われたの方々に対して、この場を借りて感謝申し上げたいと思います。



研究会での報告の様子（筆者）